

## あ・と・が・き

日高の軽種馬育成調教場の1日の最高利用頭数が4月30日に778頭を記録し、昨年までの763頭を更新しました。また、ひだかトレーニングセール・春のGシリーズも終了し、夏季競馬がいよいよスタート、来年のクラシックを目指す2歳馬がデビューしてきます。当調教場を利用した若馬の2・3歳馬新馬競走の結果は、中央競馬では近年2割前後の勝ち鞍(昨年度52勝)を上げております。1・2歳馬の利用が8割以上占める当調教場としては、本年度も利用馬の活躍を期待しております。

4月に入講した当センターの育成調教技術者養成研修生(第28期)は騎乗未経験者が多いため、安全・確実をモットーに4班体制で騎乗訓練をスタートしました。現在は騎乗フォームを固め、全員一緒の合同訓練へと移行し、研修用走路からBTC調教場内の走路騎乗へと進み、例年どおり順調に経過しております。騎乗訓練以外にも、牧場見学等の課外授業を通して、馬産地の実態・情報に触れ、多くの知識をも吸収しているところです。(Y.H.)

「たづな」欄には「生産・育成の現場を眺めて」という巻頭言で、日本軽種馬協会の西村啓二副会長に、軽種馬産業の現状と変化について執筆していただきました。岐路に立つわが国の競馬と軽種馬生産ですが、意識改革を図り発展を目指す時期に来ているのではないのでしょうか？

「調査・研究」では「追い切り調教に使用した時の新素材馬場の安全性について」という内容でJRA総研の高橋敏之研究役に執筆していただきました。新素材馬場の特性を活かして、走能力のレベルアップに役立てていただければ幸いです。「科学の箱馬車」では、「心拍数とスピードからわかること・・・馬の有酸素能力について」というタイトルでJRA栗東TC競走馬診療所の塩瀬友樹主査に分かり易く解説していただきました。若い競走馬の育成調教のレベルアップに役立てていただければと思います。

「やさしい育成技術」では、前号から引き続きJRA日高育成牧場の頃末憲治専門役に海外での経験を含めて、子馬の管理法のうち初期育成期の取り扱いについて詳しく解説していただきました。若馬との接し方ひとつで将来の取り扱いが楽になると思います。

「海外の馬最新情報」では、昨年末頃に開催された米国馬臨床獣医師協会の年次大会で紹介されている筋骨格系画像の超音波検査テクニックについてBTC日高事業所技術普及課長の小林が詳しく解説しました。若馬の運動器疾患に対する診断技術の向上につながれば幸いです。(T.Y.)